

高等学校 令和8年度

教科 芸術

科目 美術Ⅱ

教科：芸術 科目：美術Ⅱ

単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 1組～6組

使用教科書：『高校生美術Ⅱ』（日本文教出版）

教科 芸術 の目標： 芸術活動を通して、生活や社会の中にある芸術作品や概念に興味・関心を持ち、芸術の伝統と文化に関わる資質・能力の向上と、生徒の自発的創造力を育成する。

【知識及び技能】 芸術の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、効果的に表現するため技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 感性や創造力を働かせ、自然、自己、社会などを深く見つめ、主題を生成し表現方法を工夫し構想を練る。

【学びに向かう力、人間性等】 美術作品の表現の工夫や豊かな生き方の創造に関わる美術の働き、美術文化の理解を深め、多様な視点から取り組む。

科目 美術Ⅱ の目標： 美術の幅広い活動を通して、美術的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中にある美術作品や概念に興味・関心を持ち、美術文化と深くかかわる資質・能力を育成する。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に取り組む。	感性や創造力を働かせ、自然、自己、社会などを深く見つめ、主題を生成し表現方法を工夫し構想を練る。	美術作品の表現の工夫や豊かな生き方の創造に関わる美術の働き、美術文化の理解を深め、多様な視点から取り組む。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			絵 ・ 彫	デ ザ イ ン	映 射						
1 学 期	ペン画制作（生き物のいる情景）心に残っている情景や印象を基に動物の絵や想像上の生き物を構想し、主題を表す効果的な構図と視点、形の省略や強調などを考えて、ペンによる表現力を育てる。ペンの使い方の練習をする。	ペンによるハッチング、点描など、描画方法を理解する。鉛筆素描とは違うビッグペンによる白黒の表現を理解する。表現したいモチーフ（植物、動物、他）を研究し構成を考えA4ワークシートに鉛筆で下描きをする。ペンで線や点を重ねていき、B5イラスト紙を使用し密度ある画面に仕上げる。	○			○	【知識及び技能】 鉛筆やネリ消しゴム、画材などを正しく効果的に使えているか。 【思考力、判断力、表現力等】 道具を自身の表現意図に反映させられているか。 【学びに向かう力、人間性等】 美術に興味を持ち、自身の表現に対するスキルを出せているか。	○	○	○	30
	ペーパークラフト額の制作 ペン画を入れる額を製作する。	ペーパークラフト額の制作 ペン画を入れる額を製作する。	○			○	【知識及び技能】 額縁の構造を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 道具を自身の表現意図に反映させられているか。 【学びに向かう力、人間性等】 統一感のある形とデザインに関心を持ち、主体的に額縁の効果を理解しようとしているか。	○	○	○	
	葉書絵（思い出の写真）をテーマに身近な生活を振り返り、日常生活の中で思い出深い景色を切り取り表現する。	過去に出会った人物、景色、自然から選択し、描写表現技法を理解する。日常生活の中でドラマを感じ、絵でまとめることができる。垂らし込み、ぼかし、にじみ、の技法を理解する。文字と絵との構図バランスを考える。	○	○		○	【知識及び技能】 水彩絵の具による色彩感覚、構成力、表現力、レタリングの正確さは適性であるか。 【思考力、判断力、表現力等】 画面構成や自己の意図を表現できているか。 【学びに向かう力、人間性等】 対象への興味・関心、自己の内面表現のアプローチができているか。	○	○	○	
2 学 期	紙粘土による彫刻制作 自由に発想したアイデアを平面から立体にアウトプットできる造形力、表現力を養う。また、やわらかい粘土を成形/乾燥/接着/着色へと順序立て計画的に進める。彫刻ならではの360度違う表情を愉しむ。	アイデアに従った制作プランの立案、芯材制作、塑像技法、道具等を使った表現方法、立体への着色方法を理解する。作品鑑賞をする。	○	○		○	【知識及び技能】 形や質感、量感、重心やバランス、動勢などの効果、全体のイメージなどを捉え、粘土などの素材の特性を生かして表現する 【思考力、判断力、表現力等】 対象の表情や動きから感じ取ったイメージなどを基に、形や質感、重心などの効果を考え、構想を練り鑑賞する。 【学びに向かう力、人間性等】 人物表現への興味・関心、自己の内面表現のアプローチができているか。表情や動きを捉えて粘土で表す創造活動に、主体的に取り組む。	○	○	○	32
3 学 期	ゴム印制作 人物と時代の表現を判子に詰める。	版画家（ナンシー関）の消しゴムハンコを見本に、自分ならどう制作するか考え、人々の言葉や表情、時代の雰囲気を取り入れて制作する。デザインナイフと彫刻刀を使い、消しゴム判子の制作技法を理解する。	○	○		○	【知識及び技能】 彫刻刀とデザインナイフを使いこなすことができたか。 【思考力、判断力、表現力等】 構想を練り色彩計画ができ、魅力的な判子のデザインを考えることができたか。 【学びに向かう力、人間性等】 造形の美しさに興味・関心を持ち、能動的に制作し、鑑賞に向き合っているか。	○	○	○	8
											合 計
											70